

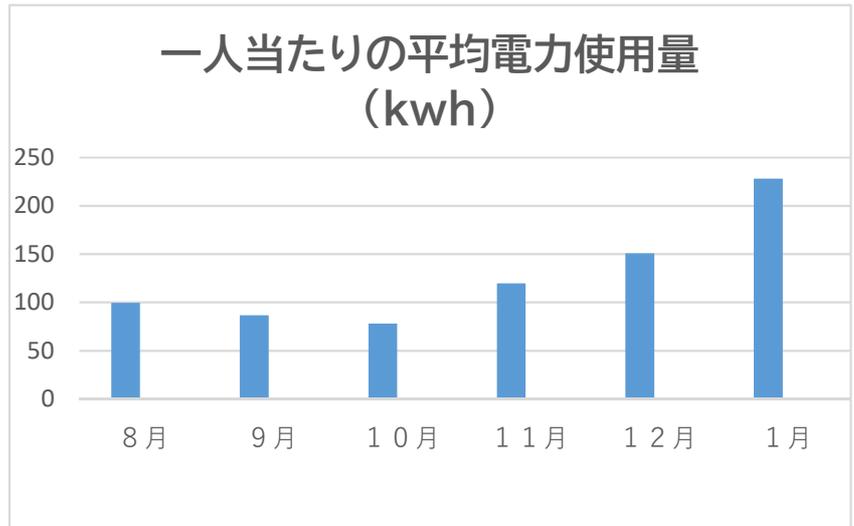
## 令和7年度「我が家の環境家計簿」分析結果

令和7年度に「我が家の環境家計簿」を利用いただいたご家庭（6件）のデータを基に、家庭で使用される電気の使用状況と二酸化炭素排出量の分析を行いました。

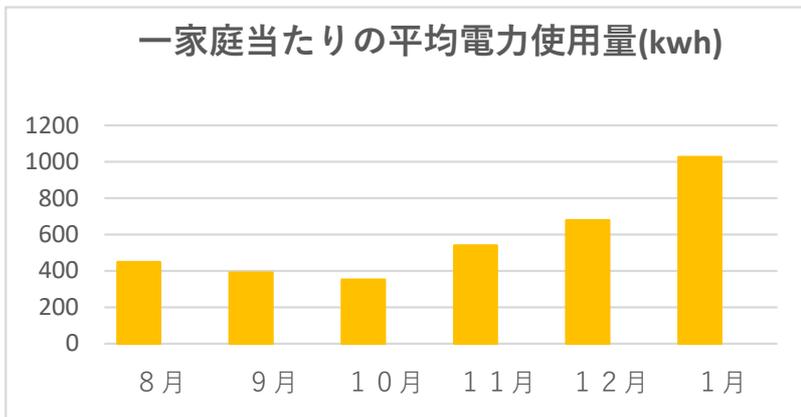
### （1）一人当たりの平均電力使用量（kwh）

使用した電力の総量を、各家庭の人数で割り、一人当たりの電力使用量を算出したものです。

傾向としては例年の結果とほぼ同じ傾向であり、夏よりも冬の電気使用量が多くなっています。8月から10月にかけては約88.3kwhで推移していますが、11月から1月にかけて使用量が増えており、最も使用量が少ない10月（78.4kwh）と最も使用量が多い1月（228.4kwh）との差は150kwhでした。



### （2）一家庭当たりの平均電力使用量（kwh）



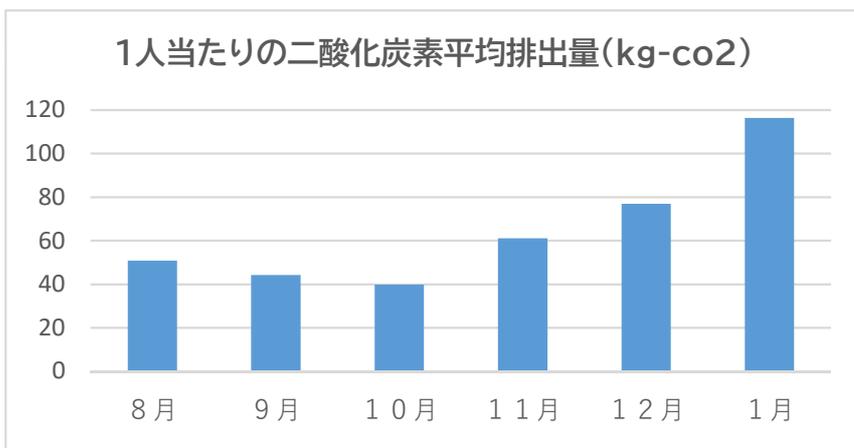
使用した電力の総量を、調査にご協力いただいた各家庭数で割り、一家庭当たりの平均電力使用量を算出したものです。

傾向としては一人当たりの平均電力使用量と同様で、11月から1月にかけて使用量が急激に増加しており、最も使用量が少ない10月（353kwh）と最も使用量が多い1月（1028kwh）との差は675kwhでした。

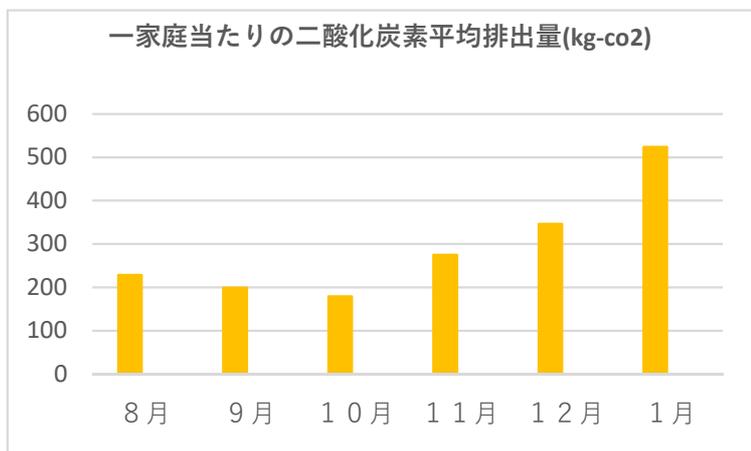
### (3) 一人当たりの二酸化炭素平均排出量 (kg-co2)

各家庭の電気使用量をもとに、一人当たりどれだけの二酸化炭素が出ているかを計算したものです。

傾向としては8月から10月にかけては約45kg-co2で推移していますが、11月から1月にかけて使用量が増加しており、最も使用量が少ない10月(39.99kg-co2)と最も使用量が多い1月(116.47kg-co2)との差は76.48kg-co2でした。



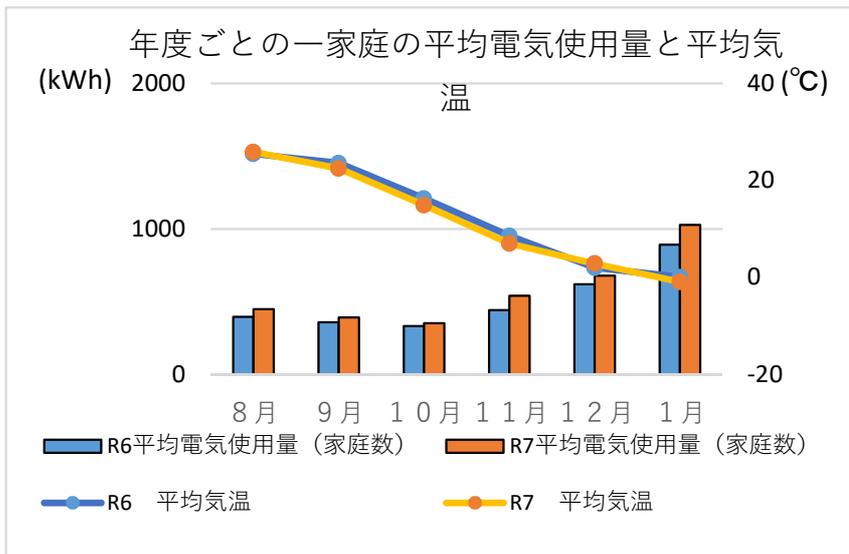
### (4) 一家庭当たりの二酸化炭素平均排出量 (kg-co2)



(3)で算出した二酸化炭素排出量の総量を、調査にご協力いただいた各家庭数で割り、一家庭当たりの二酸化炭素平均排出量を算出したものです。

傾向としては一人当たりの二酸化炭素平均排出量と同様で、11月から1月にかけて排出量が急激に増加しており、最も排出量が少ない10月(179.95kg-co2)と最も排出量が多い1月(524.11kg-co2)との差は344.16kg-co2でした。

### (5) 一家庭当たりの平均電力使用量と平均気温



令和6年度と令和7年度の一家庭当たりの平均電気使用量と平均気温について比べてみたものです。

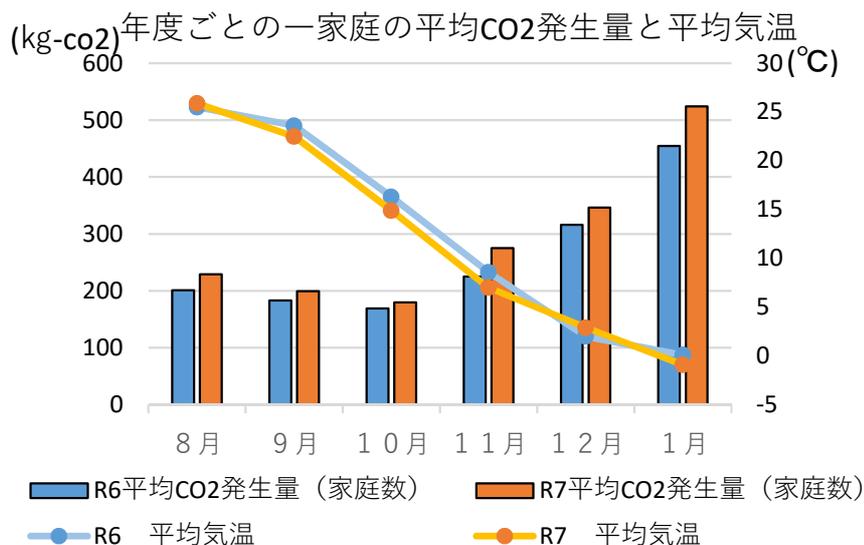
令和7年度のほうが全体的に気温が低かったものの、夏場でも電気使用量が多いという結果が出ました。

これは環境家計簿を実施した家庭で、オール電化対応の住宅が多くなったためであると推測されます。

## (6) 一家庭当たりの平均二酸化炭素排出量と平均気温

令和6年度と令和7年度の一家庭当たりの平均電気使用量と平均気温について比べてみたものです。

(5)のグラフと同じような結果が出ています。



○全体をふりかえって

上記のグラフからも分かる通り、気温が低くなる11月から4月にかけては暖房器具を使用する頻度が多くなることから、全国的にも電気使用量が高くなる傾向があります。

昨年は10月上旬まで暑さが続きました。12月は平均気温が零度を下回ることはなかったものの、1月は零度を下回る日が続きました。冬は暖房器具を使用する頻度が多くなることから、全国的にも電気使用量が高くなる傾向があります。これは、冷房器具より暖房器具の使用量のほうが多いということが影響しています。

また近年オール電化対応の住宅が多くなり、電気使用量・二酸化炭素排出量が全国的に増えている傾向がみられます。

これらの傾向から、電気使用量・二酸化炭素排出量を減らすためのポイントは、どれだけ冬に省エネができるのかということになります。

各家庭で無理なくできること（暖房器具を使い分ける（エアコン・ガスファンヒーター・電気ストーブ・コタツ・床暖など）・季節に合わせて衣服調節の工夫・窓を外気から遮断する工夫・眠るときは湯たんぽで暖を取るなど）を実践することで二酸化炭素排出量を減らしましょう。